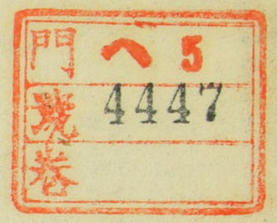
朝義登里

月美登里

全

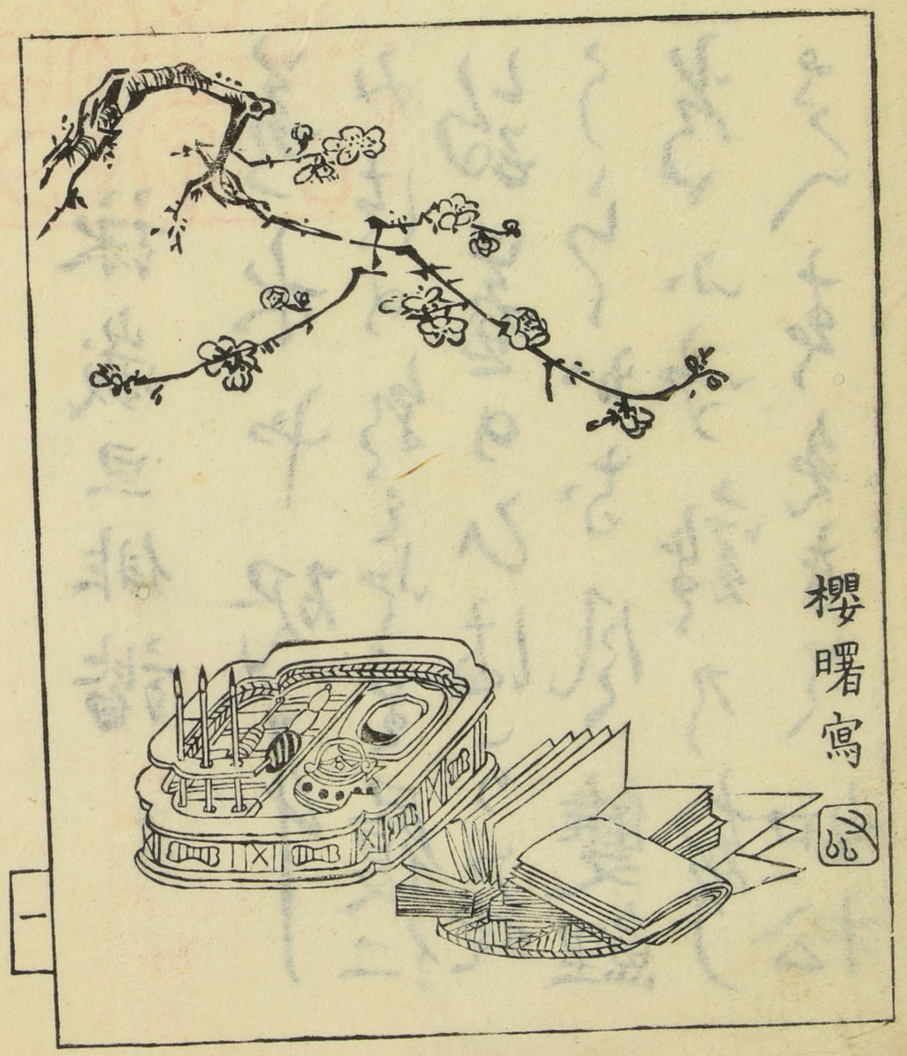
へ 5
4447

へ5
4447



詠歳旦俳諧

弟水や砧年
みちの紀行を履仁
鈞蕃のひはこの発
うらうかち風雙鯉
光ふ雛乃彩
さへ恵きて如松



櫻曙寫

雜旦

角ぐむ人のたろや玉の春　維迪

志ゝ色をめゝる門松乃琴　履仁

殖ゝる海苔よ白魚ゝ添て　雙鯉

○

麋たや玉苔ゝ春ゝ初子洗　把菊

海山ちらく三乃朝風　櫻曙

田作ゝも聖ゝ國の春ふゝ　履仁

○

蓬莱ふかや数のるやさく迄石　櫻曙

風千光くく和歌の毒色　履仁

雪は幹はるふ日のさして　李蹊

東君

試る筆一剪やふくはら　雙鯉

一百くよ枝折る七五三　維迪

むつはきき友を梅の表後ひて　履仁

蕉翁菊を愛し文雪を歌せし迄秉ハ油を殺るを惜ふて

確よ槌よ二見雲連鎖　李蹊

旭うつらふ門乃松外　履仁

後吹て雪笛の琴さん　把菊

○

初市よ買たや米の山ち幸　半魯

大光く甲斐ある春の日紅　白沙

青柳の枝よく枝をふりつて　履仁

ぬるゝ　移しうるいろはよりさきをもとむこのへて

植うるて初日ふ清し霜の梅　如松

恵方ふ向て高き鶯　履仁

雪解る和山や笑を含らん　淑娥

○

千金の春を一兎くや福寿草　栢茂

袖にちる千鳥玉乃乱　櫻曙

出そむる笹の運ひも春ふまて　履仁

○

家くの綺羅をみくや玉乃春　五岳

部のしらふ明る　樓　履仁

子雀を枝ふ世〳〵鳴て　櫻曙

○

啼く氷ふ蛍ぬきたりけり　烏朝

岩て拾むる茶も青柳の色　櫻曙

孟宗の軸ふてくゝ東風吹て　履仁

○

雪ふるやまくまなる松ばら　白沙

囲碁みる袖に雪おちかゝる　栢茂

引ぬきに雪のひるまの鶯哉　履仁

去年　卿乃陰　あり一ふん友乃
厚情を忘りかたく此年を祝ふて

何りくらやはるの如恵の初日影　其柱

春雨ふくるなり波　履仁

ゆるさとつまる屠の田ふりて　白沙

○

曙ゝ侍ゝ春待ゝ鶯のうゝひ初　英里

春乃大ふるふ元日出　其柱

猫活の声は淡きを人や好むら　履仁

○

美水み音を和く笑一の声　端工

梅ゝ柳ゝと古きはゝ新ゝ屋　履仁

雪乃口ゝ白ふ息吹ゝ　李蹊

○

桜貝の舟仏ゑてよりまとを始　淑娥

たとしふ艶乃方妻　淺鮮　吉女

白笹の外は雪も忽ち花敷て　履仁

○

さみせんのいとも加すり三乃形　吉女

深もらくまきぬる袖　履仁

八巻をひろふ人の書ふて　櫻曙

○

竹の子は京初もよりたり屠　弥吉

ふしぶしの元乃毒ゑ日　雙鯉

小鮎汲淑ふ三ゑ猟の枝折て　履仁

○

乎さよ待佛ゑる千世の妻　立藏

糸ゑくとゑ折ふ袖風巾　履仁

而百ゑ那のゑゑやゑこるゑん　其柱

新正

う地出ル小槌や孫の子始　可永

霞も深くくゝ赤きき寿　李蹊

傍おく苗代みを引ばけて　履仁

○

季のあゝ玉かゝやす旭ゝ影　六宜

鶯も老ふ柔ふ振ふ十代田　履仁

千世のふ例ふ小松引ふ出て　如松

青陽

今も実岩戸ゝ開初日新　小淺羽　蛙也

二ゝらつ門松乃幸　櫻曙

春風を吹はきの風巾の鳴ゝ　履仁

○　仝

四方の雲晴てゝ原ゝ初手水　草露

野風ゝ吹る梅垣連梅縁　履仁

潔く小枕の鶯ゝ音を上て　李蹊

○ 川角

美水やふゝせ城しきく釣瓶縄　遊松

旭乃白ふ桜　花房　如松

冴ゆる風ま白屋の磨羽て　履仁

○ 仝

見せ付徳ま松や門鋪　葛川

熱容見ふ美蓉の新　英里

玄蓉ひるる色れくま嘶て　履仁

○ 西戸

紫金もかたゝて咲や花の春　文里

ゆ形ま見ゆ〳〵る水の面より　履仁

山猫佐の格ま浜き美て　櫻曙

○ 仝

初東風ま来てくゝす金姫帳　二鳥

市草い子ゝゝ美鶯の琴　履仁

久ゝの天の日鈴もやく延て　半魯

○

京初や弱くさみゝ垂方乃　仝　一巴

ぬるむも志るき掬投井の水　櫻曙

青柳ゝ糞筋糸の抜ふゝ　履仁

○

芳水や幣白くゝ梅の影　粉堀　遊鶴

垂方の窓ゝ和ゝらふ風　履仁

去国多ゝ統ふ旭のゝ切地て　櫻曙

三　始

天ゝ下皆笑新ゝ年の表　平方　月下

風芳ゝ紀乃梅乃下窓　婆鯉

鶯の一聲ゝ清敬て　履仁

○

教祢宋ゝ玄奚の戸や明の表　仝　北可

雪解ゝ多の明方る市ゝ洗　婆鯉

春くのさゝ木の梅糸ゝれて　履仁

○

家毛人もよろれたるの姫哉　仝　香江

清きぬ詞の彩玉の毒　凌鯉

天つ乙女の菜ふ雪を摘交て　履仁

○

名月をお能木の百や初日哉　仝　百泉

手ぬるのふ色むさる柿　凌鯉

いさきんを辻寝引の紙ふて　履仁

○

喰摘ふ這ふのむふ恵方哉　仝　南畝

引渡連獨ふ清ふ横ふ糸　凌鯉

朝霞の弥や遥ふ揚ふらん　履仁

春興

咲毛の〳〵おく玉水毒の雪　凌鯉

美ふ美や塔ふ子の井は淺ふ雪　櫻曙

如るふ〳〵はい山淡ふる雪哉　如松

佐保姫の針のたちひや糸柳　淑城

梅ゝ香を風の素肉や薮の乃　烏朝

鶯先の奥をの小奥ーて

雪よりも寒ほむ孫の志ろさい　李蹊

明弱る田ゝ何ゝぬゝむめの花　維迪

○　平方連

梅ゝ香の俤や下司の一寸戸　月下

乙石ふ寒後もあるや板岩　北可

十

早蕨や熊手の沈は飯る寒　呑江

うぐひすや暖ふ息吹出ー　百泉

吹風をよけく折ふ加城哉　南畝

○

佳ゝれてもくゝ孫よ茅葉の　川角　遊松

寒ちれや自も睡氣の杉ゝ　西戸　文里

少別ー蓬の遠さよ　夕霧　五岳

素直ゝる人ゝは学ぶ糸柳　其柱

光源氏玉の表日のうらうら　六宜

○

ふれふれ初雪　初や梅花　無事庵

梅香手ぬぐひ起るあさぼらけ　履仁

題詠　春之部

吉書

書そめや硯の海に手の雲　菱鯉

去初や羅を清めの七五三　吟風

已の名を去初るあり手札の烏朝

去初や茶を硯の和合樂　与歩　素積

書そめや此うちのくめ信夫摺　履仁

七種

七草やいつより不き六の海　桜曙

ちりぬさや隣の家もけふ春　五岳

七草や六六一色に春あるき　復鯉

長閑

もゝ[illegible]ふ湫と枕る畑の縁　如松

のゝゝゝやん　仕セの帆のあゝ　吟風

松花

ゐを一日を むゝ松の花　曇　復鯉

ゝらくゝ花や六五中の三保の松　櫻曙

住吉や神の万よく　松乃花　素猿

幾千世のきゝへやまりの花ん　如松

蕗薹

十二

去年より大子筆ぢり蕗薹　櫻曙

日当りを赤ゝりゝやふきのゝゝ　平方　月下

踏まてゝ貞ぬ苦味や落薹、　芽計

礎の遠百ゝつや　如きのゝゝ　李詩

涼まゝ垂の雪百ふたつや蕗薹　夜仁

出暮

出ゝりや刺てゝ清る寺男　平方　百氣

てかゝ[illegible]や沾追ふ猫をふゝゝへり　坂戸　里翁

十三

出羽や法を濁さぬ掃除　吟風
てうりや僧く人あゆい惜き人　如水（二条為氏）
お詣や雨ふる一枝仮の宿　復舟

初櫻

菜屋れいれくめんりのう初櫻　吟風
雲ちくるるとこ一手ちりたつ雲くる　復舟
ちくせしの云る札白し初櫻　如水（二条為氏）
十日ふ砧りるくぬやはつさくら　月下（東方）

十三

見ちめ色一手櫻ぶ松さくし　履仁

彼岸

ゑうんまて苔や市法の花乃種　百川（東方）
祝出てんもつまき彼岸うれ　吟風
極楽の便色花のひうんの翁　小西（東方）
彼岸ふ郭詩も永も多る雲　呑江
花の雲ふ入や彼岸の夕ちく日　復舟

早蕨

正顔や形うるはして吾が情手　和名正治
さいくひや拳手のうちちゝ搔ひうる　小方正
正顔の手を匠しる日御うの　復能
隠ゆるゝ人へ出るものやちり蔵　履仁

人麻呂忌

隠れ刺為浦くの人丸忌　五岳
恋あるも紅をとゝむや人まろ忌　復能
名ゐてもこのをとゝ見うり人丸忌　百泉正方

菫

恋ゝ雲雲をうけるやはこ菫　復能
碑の面や流ゝはこ古ゝ迄　櫻曙
苔敷ゝ乃慰忌変ゝれこの面　和名正治
菫咲や二枝乃面あゝり　履仁

茶摘

樗姫の手ちもかゝたや茶摘時　櫻曙
茶摘ゝ見手猿きのよきゝ箱に　淑嫁

夏之部

袷

春を惜しむ袁ふあたゝ心　如松

桜桜むら〳〵咲乃袷哉　坂戸仙魚

かゝゝ心ゆ拾ふよき袷哉　雪方月下

櫻實

みきゝゝや苔の保ゝる法度出　莽仙

実桜よ拾ゝゝるく持け苔の袋　坂戸里翁

実桜や布袋の山色の書巻　復仁

飛蟻

生苔よ飛蟻の巣ゝ朽木の穴　麦飛

たゝあり出て移るゝ枯ぬる春木心　桜哭

飛蟻ゝつや日本晴の空ゝ色　雪方小可

ちる苔の墨絵ゝ飛蟻心　坂戸仙魚

飛蟻翁ゝ市ゝ日吉の祭いさめ　復仁

葵

手入して紅ふ結ぶあふひ草　麦舵

和らうて神のんよ河ふ日ゝ影　李渓

若ゝ代や紫ゝ色ゝ咲き葵草　米魯

真の時ふ二葉志ゝ奴葵ぶ　履仁

柏餅

手ふとりてうら折りてち柏餅　正方　北可

紫陽花の真中の自やかいり地　西戸　文里

竹ちゝ奴花紫や名ゝ柏ゝち　川角　柏松

神農の味ひいうみかとゝち　与世　素猿

若ゝ代や志ち廣葉の柏ゝち地　浪舵

紅花

加茂の名ゝ志れや吾妻の紅花　坂戸　里鶏

紅さゝやけ一耕地蒼の志り　高金　如月

夕日影園ふ殖ゝ紅ゝ　西戸　文里

那ゝの霞ゝ志ち紅乃はな　川角　菊川

天竺まてゝ流ゝ紅乃はな　与世　孫波

偽家も色よ出よう紅花　出羽　蛙也

早松茸

ムラ雨の足とやいさん早松茸　桐畔

揺がぬの風葉ゆるさはつけ　復軌　駿河

古葉掻熊手の先や早雲茸　仙園　田木

来る秋を待ふ新やさ乃半げ　里郎

秋よりも夏を見よ早松茸　川西　松松

早松茸元もちくさ如山色小、　蕙風

蚊帳

蚊屋ゝれて又通れう葉門　坂戸　星雄

世中を志ちつきれた蚊屋の内　如松

孝行よ新ちゝ蚊屋のちよき心　李氏

夏の苦を樂ふ掛る扶の蚊帳　坂戸　秋里

型ありと申ふ屋様やちゝかやの内　復仁

綿花

葉の雪ゝ御ひろけうりつゝの花　復軌

ゆふの芙蓉や畑井のひとつ孜　桜曙
暑さうゝ冬の支度や綿茶　小浦羽　草露
あつさとゝまる淡いうゝのゝ鮒　鮭也
篠鰒の二ゝ糸ひくや弥生　五岳
夏虫よ吸出されるやうゝ花　履仁

菖水

ゝゝゝ冬や弥生の酒のかゝり也　桜曙
菖や今水ゝ茅ぬけ花の色　同

ゝゝめるもの酒ゝゝもよしや菖の水　西戸　文里
一日の山の雪久ゝ毎ゝ　川角　抱松
菖冬や酒る器ゝれば清水より　西方　月下
白妙乃菖ゝゝゝの清冬心　履仁

百日紅

榻の端ゝ出もあるゝ百日紅　淑蛾
のゝゝ酒ゝ花ハ笑ゝゝゝるすゝり　坂戸　里雀
百日乃紅ゝめかゝゝやさ涼ゝゝ　五岳

花ゑ日毛破て おつるやさるすへり　復仁

川狩　小沙羽

河うそや　堂のうしろ　実魚と水　蛙也

かゝり乃　袋や　柳の面　ゆ　ほ　蓑鯉

物ほくセ魚の　隠る　宮師川　復仁

秋之部

秋風

砧の　物乃きゝ　はほよさや　秋の風　吟風

柳うゝ　皆入しゝうあきのうセ　蓑鯉

小山の　ぎうすさ　秋の風　西戸　文里

広小屋を　作ゝセうり　河きけうセ　西方　百泉

秋風や　あれ　吹　原ゝ　作生の　芋　揺曙

あきうセや　岩を　ゆ　セ　雲　詠　復仁

蕃椒

秋来ぬと　色み　志ゝ　古や　ゝゝ　加ゝ　小沙羽　茅雲

稚ゑ毛　色ゑ　生ゝ　ふや　やゝ　うゝ　ら　、蛙也

紫苑の葉より朱うたるかな　蕃椒　横曙

くれあいの雲ゆうあゝぬらぶくらい　淑嫁

促織

たゝきもりやつゝて河やとる糸蔦　言水　如水

侵織や糸口切るまよもすがら　西方　石泉

荻

音さらくさらら搦りの風の荻　横曙

面影のつゝいる音ゆふ荻ゆふ勢　五岳

川風の音やさゝむ峯の荻　斐紅

風の百色葉ゝちるゆふ荻の音　坂戸　星雄

淋さの分よさむ秋や荻乃風　西戸　文星

八朔

八朔や菊も新出き礼きろ　如松

たつさゝや葉山ゆゝ雲の白色　川角　拙松

八朔や物ヤとろふてむめの香　吟風

ゆ稲ゆりてすゝたのすゝき祝ひい　履仁

八彩や竹よりも雲の玉の表　同

木犀

りんせんの魚や傾けきの花ん　如松

木犀のいろりよ清きを妹覚し　李流

えくぼいふ秋を忘るる白ひし　川角　拙松

木犀のをるる法ふにおひろめ　夜仁

初鮭

菊も木も魚も涙やちる鮭　麦解

ちり鮭や松魚の涙乃茜紅葉　同

物孫る秋よ鮭の色　川角　拙松

初鮭や紅葉流る河淑より　夜仁

蘆穂

曳綱よ芦の穂志ちく嵐の形　吟風

あるる付孫やゆ芦ぬ人海鷺　半魯

芦の穂やてもむきくの汀葉より　淑娥

出来秋やよ芦の穂の孫るても　履仁

秋夜蛤

一声を雀と似るうら枝蛤　麦鯉

見の戸を月よりのぞく枝蛤　桐曙

宵よりの月ともちきるる枝ばうり　石泉（平方）

蛤ふ月を日よりてとる枝うり　柱松（川角）

升壽を濱の生砂ら枝蛤　淑婦

たうるさく歯のうく音や枝蛤　如松

月影や蛤よりさす波うしら　復仁

梅嫌

梅枝ふ〻ふやちりそめて梅嫌　麦鯉

夢の中をるきらむめをとき　坂戸　里鶴

野雪を雲よりつ梅嫌　復仁

時よ迷て雪よみ弥や梅ち　同

鴨

さゝ波一ちのりおやさゝ波小田の鴨　麦鯉

羽のきいする鴨のくへさゝ　芦百代　同

淋しきを訪へば弾いて芋つゝや鴨　坂戸　星鶴
ちひさき数もを呈しうり鴨の寄　如松

椎

ゆるよ志ゝ奴而や笠うつ椎たゝや　坂戸　星鶴
椎の実ぬ音ハ寂り　板　庇　雙鯉
志いのゝゝや盥よたゝるる皮の実　援曜
ちらき板の美の枝折や椎の音　夜仁

冬之部

枇杷花

枇杷のちか多も刹　泉よ音も那　吹雁
ひたの花咲や美絵の洩る影　百糸　玉子
松風の琴ふかよハヒ枇杷の花　柱松　川角
ひき呉ゝ奴日御や〳〵紀ひハの花　夜仁
巳ら美ふよ抱へゝれゝう枇杷花　日

神之留主

何赤の留主ら嵐の蕊　祐　美鯉

紙ふすまの明るき花や素粉　同

白鬢をいとはるめ神の留守　正方　自下

鮮口元や去ん神の留守　履仁

初霜

ちりしきや枯葉みな色のうつり炭　西戸　文里

初霜や色くゝ庭の白髮松　半魯

霜枯をてをむるより炭ふね　履仁

榾

ゐる焚や膳のうしろ囲炉の嵯　麦鯉

榾ふくゝや杣人もう膳ゝ面　正方　自下

人をれゐるさへ灰の厚き代　援曙

榾たくや火宅出るる楽つ　李泥

ゐる焚てたゝ詩の伽や片山家　牡蛭　柱翁

榾ふきて栄ふ乃涼山人　履仁

冬至

猫の眼の計も延るる冬至代　如松

麦の芽も日和も延る冬至哉　川角

一二滴梅の和らぐ雪解　小淺羽　野子

糸屯ふの一ぬ助宮司　小淺羽　野子

蚕ひとつ竈元に居るとしかな　下方　百泉

綾搗の梅見て暖る冬至哉　小原

ぬくぬくと日和の雲つとり　栽　樣曜

早椿

已の刻の厚着も温し日椿　如松

蒙ふる埋む火も恢し日ぬくし　小淺羽　野子

咲ぬめて雪の降りる梅哉　復鯉

蒲團

寒ふるをさきるふとんや柏餅　樣曜

冬ひとつを隔てもうり此蒲團哉　如松

地きる多も枯葉のふとんかな　西戸　文里

寒波の治先志也蒲團哉　二多

物学ふ座ふ数一まの蒲團哉　復仁

鯨

七ちよち赤貴曲突や鯨渦　正方　自下

人波のさらぬく磯やくらうぬ松

浦人をひ百貝ーうり鯨網　正方　百泉

波京よ足別奴魚出やたり鯨　小淺田　肥子

冨岩ちる鯨や海の黒牡丹　模暢

ゑ化さふ鵬みちる人初鯨　復仁

寒竹

かんちくや並よき垣の矢うあへ　西戸　二角

ゑ外や石月の石よはする雪　川角　托松

ゑんちくやひうあふ雪の下　正方　百泉

ゑをまつゑ外のゑけ袴うあ　復鮫

ゑ外の高も短き日御う形　復仁

雞卵酒

ゑゑあのぬくゑ多ちり玉子酒　復鮫

小松ふけて立ちゑつうはこ酒　川角　托松

年木、樵

山寺の返るのせゝりやゑのきたり　桜嶋

はなゝ屋みたりはむゝゝ木ゝ　浪鯉

瓜拂

手の涙をつゝてや瓜をおゝ多　麦鯉

瓜茂ゝ翌ハ浦嶋太郎月　里鶴

押流せ拂ひゝ瓜の芦川　履仁

○

雪涼ゝ扶更う物の言絶ぬ　素外

歳暮

鉢目のたゝみたゝよゝ年の暮　一の永

ゝのう地よ磨て待や玉の春　六宣

○

平方連

ひゝくゝる支度たゝりや年の暮　月下

耳洗ふ掬扶罪ふゝり年の市　北可

計妙の睡る百もちき師走ゝ　香江

人並や晩日暮れも衣ふて百氣
寄垢離の狂言うへて戻たるひ　南畝

江都評者年尾

井の水とくさへ清むむ一歩に　蒸志
買あて一眼読よ手をつきれり　雪堂
萩ちて袖ぬる松やしの書　湖十

守歳

自言い物ちの花の寄付め　雅迪

大ちる手柳清一七六三錢　把菊
手の洗ふ芋帆の走や屠蘇　桜曙
しの尾ぬ志めてよ一錢蕎　め松
巻てよ手の軸てふる屠　孝淡
積上ふ寶清ちや手の紅　ぬ魯
入紅や寄手へ茄子ち白沙
寄ぬへ鶏の侵ち歩交の形　其柱
翼ぬき金も形来る師走哉　英里

風り梅よ緒やさち涼よ蝶掃　栢茂

市さつや盃寒る夜秋おろ　五岳

地庚孤さる待宿の清さろ　烏郡

寒ちる手の内きゝ器見哉　淑嫁

手への梅毛寒待風情ち南　吉女

手波や櫓の柏子よき器手　弥吉

風巾孤て手の一枝や待久　立義

斧の音ゝ寒へゝくゝや手木樵　川角　花松

漕よちる手の磯屋や寒紅　蒼門

琴の音を門はきゝゝや小松寒　西戸　文里

行ゝのうゝろも釣や餅の毛　二象

佳石ゝ八寒の月ち條枝の梅　一巴

めてゝちや燥ちる人よ厨の音　彩城　花鶏

煤掃て寒ち宵の乗代　小淺川　草彩

花氏もま寒を寒ちの

人ちゝ小一市四里乃師寒ち形　蛙也

歳杪

老らぬ菜買ふや達の市　芳子庵

まゝき枝折やゝ年の一歩松　麦鯉

春やすん多の尾上ゝ達の音　履仁

天明六年正月穀旦

江都室町三丁目

須原屋市兵衛刻

山梨県立図書館蔵

蘇林集序